

# 患者ケア実践に基づく薬歴管理のスキル向上を目的とした症例検討会の開催と評価

○ 森内 新<sup>1)</sup> 岩渕 瞳子<sup>1)</sup> 金野 亜純<sup>1)</sup> 駿河 幸<sup>1)</sup> 高橋 和恵<sup>1)</sup>  
野坂 明美<sup>1)</sup> 馬場 亮輔<sup>1)</sup> 佐藤 大峰<sup>1)</sup> 田中 和<sup>1)</sup> 早川 達<sup>2)</sup>

1) 株式会社ライブリー 2) 北海道薬科大学

## 目的

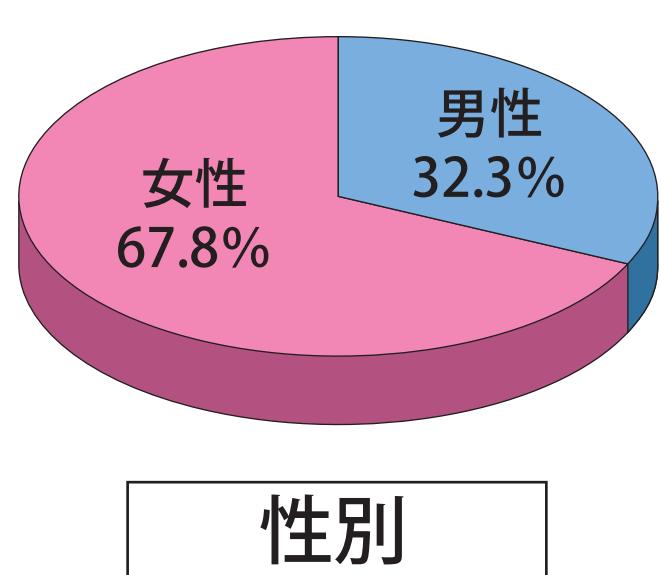
近年、薬剤師業務の物質志向から患者志向への変化に伴い、薬歴管理業務が重要視されている。しかし、十分な薬歴管理がなされていない現状があり、その解決策として、患者マネジメントの考えに基づく患者ケア実践力が必要である。

そこで、我々は、全社員を対象としたグループ形式の症例検討会を企画し、その成果を評価することを目的とした。その結果を報告する。

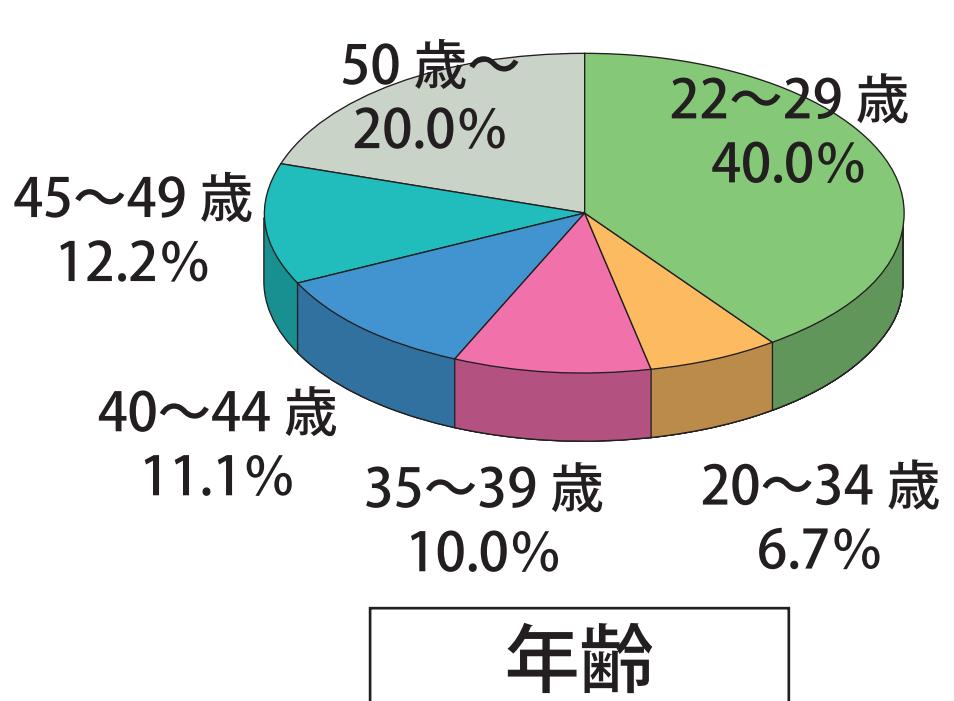
## セミナーの概要

内容：7～8名 /  
グループとチーフで症例検討会  
会場：北上・盛岡 2会場  
検討時間：60分

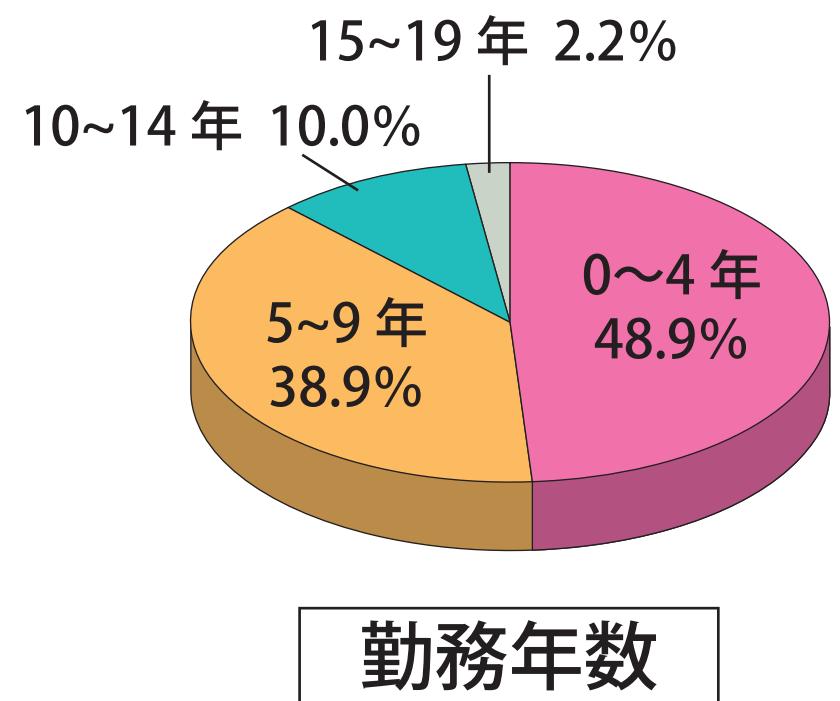
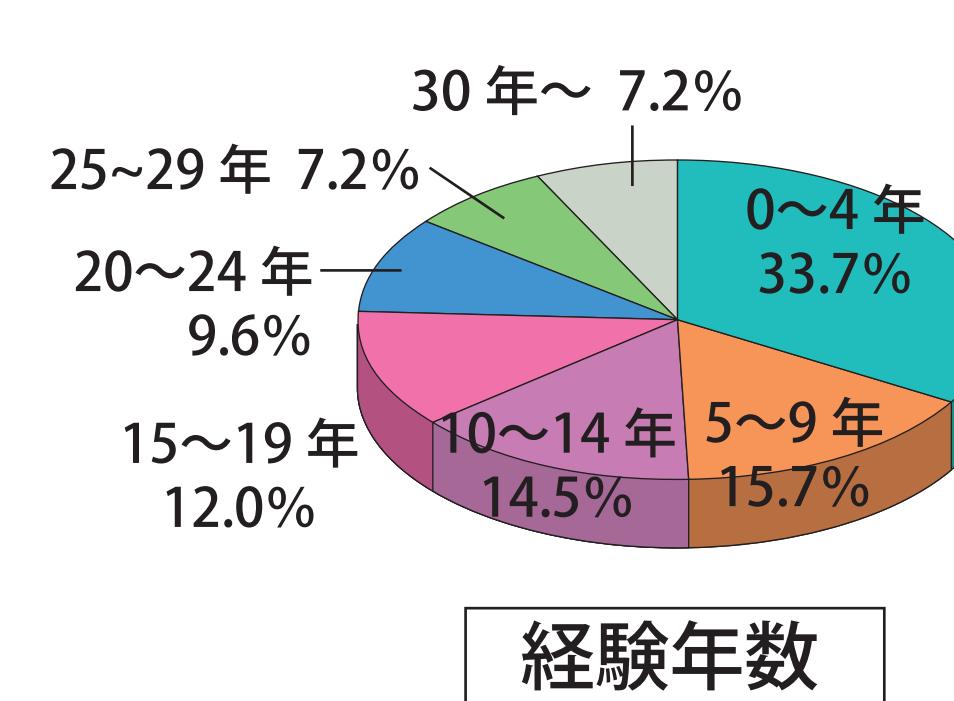
## 参加者



北上会場 46名、盛岡会場 47名（外部参加者を含む）



アンケート回答率：96.8%



## セミナーの流れ



オーディットを実施するために症例検討会の方法を身につけます。



患者の個別状況を把握するための聞き取りのポイントを身につけます。

患者の生活環境から併用薬による影響を聞きとるべきでは？

挙げられた患者プロブレムよりこの患者に必要なケアプランを挙げてみてください。

事前に参加者に症例歴を配布

セミナー前

症例に対し、自己学習して各自検討する

セミナー当日

チューターが進行役となり、各グループで症例検討を行い、各グループ毎でケアプランを作成する。

各グループのケアプランをチューターが発表。その後、ケアプランの総合討論を行う。

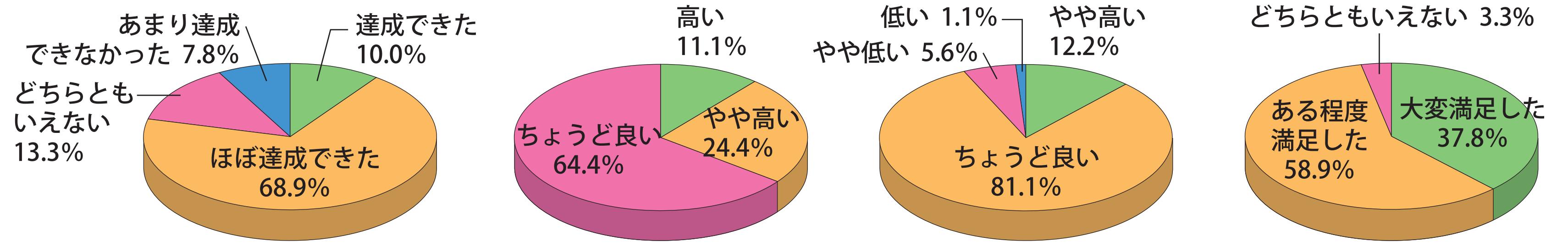
まだ患者から聞いてない聞き取り項目から患者プロブレムリストを挙げてみよう。



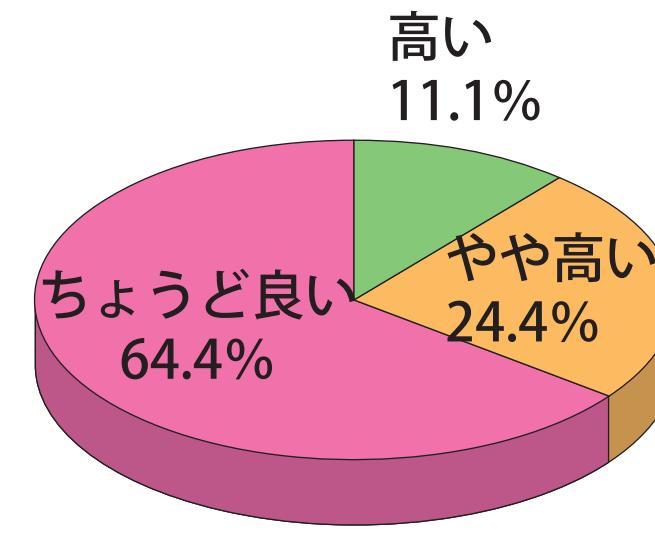
医学的問題点の抽出と解決するための必要なスキルを身につけます。

## セミナーの効果

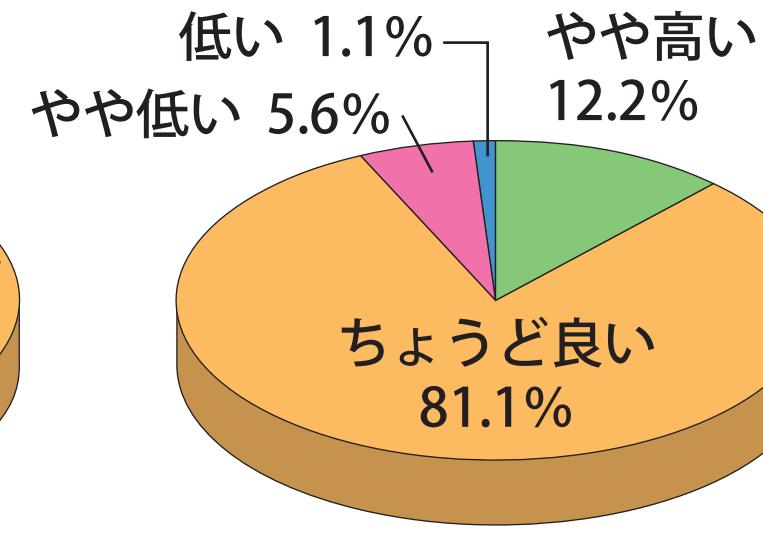
### 満足度



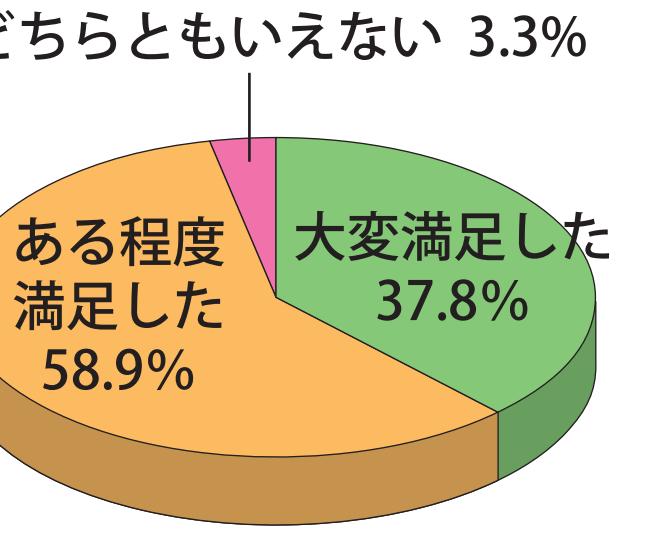
### 目標達成



### 研修レベル



### 研修内容



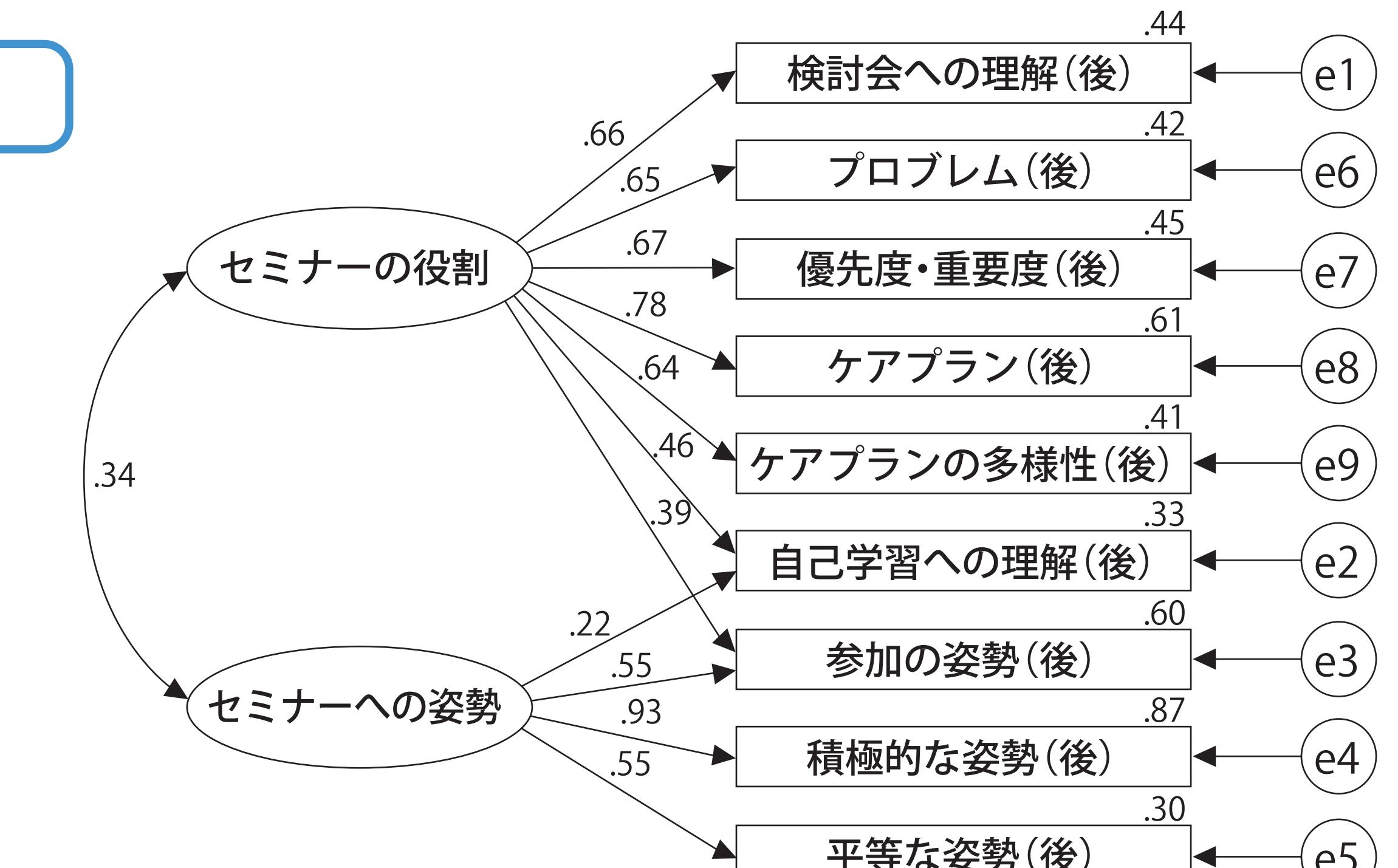
### 総合評価

#### 各項目について

総合評価との相関（前）	総合評価との相関（後）	平均点（前）	平均点（後）	前後の平均点の差	無相関の検定 [P値: 判定 (*: 5% **: 1%)]
-0.002	0.261	2.90	1.79	1.111	*
0.089	0.299	2.44	1.69	0.756	**
-0.032	0.166	2.63	2.09	0.544	
0.066	0.113	2.60	2.04	0.556	
0.046	0.267	2.32	1.90	0.422	*
-0.064	0.031	2.94	2.32	0.622	
-0.011	0.237	2.89	2.19	0.700	*
-0.039	0.135	2.89	2.22	0.667	
0.009	0.064	3.04	2.39	0.656	

### パス図

自由度 = 24  
 $\chi^2$  乗値 = 44.964  
p 値 = .006  
GFI = .903  
AGFI = .819  
CFI = .923  
RMSEA = .099



参加した薬剤師の約8割は目標を達成できた。さらにほぼ全員がセミナーに満足した成果が得られた。

総合評価との相関で有意差のある「検討会への理解」「自己学習への理解」「平等な姿勢」「優先度・重要度」については、セミナーでの効果があった。

パス図は、ある程度のあてはあるモデルであった。

## 総括

セミナーに参加した薬剤師においては、非常に満足された成果を得ることができた。

これは、セミナーの重要性を認識した結果が、目標達成度と総合評価につながったと考えられる。

各研修項目において、成果があったものとなかったものを明確にすることが可能になった。

今後として、積極的なセミナーへの参加の意識向上や薬歴管理の更なる技術向上に向けた内容が課題である。